



明小だより

平成22年12月
横須賀市立明浜小学校
校長 渡辺 文
NO. 8



新たな一歩を踏み出す



木々の葉が風に吹かれ、舞い落ちる季節となりました。いよいよ冬本番、そして年末を迎えます。最近では、お正月よりクリスマスのイベントの方が、盛り上がっているようにも感じますが、新年を気持ちよく迎えるため、家の中の大掃除をしたり、御節料理を準備したり、年賀状を書いたり受け取ったりなど、家庭での生活が普段とは違った様子となります。また、気持ちの面でも、学校生活の学年としての1年間とは、また違った1年の締めくくり、気持ちの切り替えをし、今年よりさらに良い年となるよう願ったり、誓ったりする大事な時期・機会でもあります。

このような日本独特の風習を、子どもたちに感じ取ってもらいたい、これからは伝えていってもらいたいと思います。

12月に入り、子どもたちの中で、発熱、下痢・嘔吐などの症状が見られるための早退・欠席も出てきています。これから、気忙しい日が続くと思われます。つい、大人的生活ペースに子どもたちを巻き込んでしまいがちですが、子どもたちの生活時間につきまして、子どもにあったペースや内容にさせていただきよう、ご配慮いただきたいと思います。

1月11日火曜日、元気に登校し、新たな気持ちで新年を踏み出していきましょう。

創立50周年を迎えて

11月20日、地域の方々など来賓の皆様をお迎えして「創立50周年を祝う会」を開催いたしました。天候が不安でしたが、見事に晴れ！

ホッと安心しながらも、リハーサルなしのまま南体育館で行うため、子どもたちが迷うことなく自分たちの演技をし役割を果たせるか、少々心配していました。

しかし、久里浜お囃子保存会によるお囃子に導かれ入場し、開会の言葉、来賓の方々のお話と、子どもたちは、静かに良い姿勢で聞くことができました。その後の、昔と今の地域の写真を見比べたり、自分たちの学校生活の様子が写真やビデオで出てきたりする“明浜小物語”の時には、驚きの声が上がったり映像に映った人の方を見たり、和やかな雰囲気も出てきました。

次の各学年の出し物では、群読、リコーダー演奏や合奏、合唱など学年全体で、心を合わせながら、学校や地域への思いを発表してまたまた。バスケットボールでオリンピックに出場した経験のある立川選手は、夢をもつことの大切さ、仲間や周囲の人々の存在の大きさ、あいさつの大切さなど、短い時間の中で丁寧に話してくださり、最後の締めにはPTAの望月会長のお話となりました。さすがに終わりの方では、1年生が少々体や頭を頻りに動かすようになりましたが、それでも、ほとんどの子どもたちが、終わりの言葉まで、しっかり聞くことができました。

ご出席くださった来賓の方々には、子どもたちの一生懸命さや姿勢のよさをたくさん褒めてくださり、子どもたちのよさを見ていただけて、本当によかったと思いました。



子どもたちは、この日をどのように受け止めてくれたのでしょうか。

2年生が、記念品の『明小ロゴ入りバンダナ』を、当日下校する際、嬉しそうに頭につけ帰ったそうです。祝う会における精一杯やった自分自身や自分たちへの充実感がそうさせたのではないかと思いました。そして、今はまだ、よくわからないかもしれませんが、「明浜小ってよかったなあ」「明浜の町っていいところだなあ」という思いが、記念誌を読み返したときに、バンダナや下敷きを使ったときにふくらみ、明るくたくましく生きていく源になってくれることを期待したいです。

ここから、100周年に向けての、また新たな一歩を踏み出すこととなります。

生活についてのアンケート

合同体育大会

少し前のことですが、11月6日（土）横須賀アリーナで、小学校特別支援級合同体育大会が行われました。本校からも3人が参加しました。



学校とは違う広い場所で、大勢の友だちと、走ったり跳んだり転がしたりと、様々な運動に挑戦しました。また、開会式では、全員合唱の時の指揮者を6年生の2人が立派に務めてくれました。

学校評価について

今年度の本校学校教育に関する「学校評価」にご協力いただき、ありがとうございます。まだ、数値として集計し分析するまでに少し時間がかかりますが、それらが出来次第またお知らせしたいと思います。

また、文章でお寄せいただきました内容につきましても、よりよい学校づくりに向け、ご意見・ご感想を参考の上、検討していきたいと考えています。

なお、記名しての提出について不安である旨のご意見をいただきました。これにつきましては、私たち職員は、匿名でなくては意見や考えを伝えられないような関係ではなく、子どもたちのために、どうしていったらよりよいのか、学校と家庭が一緒に、対等に考えを出し合いたいと考えております。お名前がわかったからといってお子様の不利益になるようなことはありません。

更に、「わからない」の評価選択肢を作っているのも、学校へ来ていただき様子を見ていただいているにも関わらず「(活動が) わからない」のか、学校へ来ていただくことが難しい保護者へのお伝えの仕方が悪いあるいは不足しているために「わからない」のかを捉え、改善していくようにしたいとの考え方からです。

保護者の方から見ても、行ってみたいくなるような魅力的な学校を創るとともに、学校へ行ける回数が少なくても学校の様子が分かる、信頼できる学校を創っていきたいとも考えています。

何とぞ、記名での評価にご理解・ご協力いただきたいと思います。

本校では、できるだけ一人一人の子の思いや様子を把握したいと、4年生以上の子たちについては、9月に個別の面談を実施いたしました。後期半ばになるこの時期に、全校児童を対象にした「生活についてのアンケート」をとることにしました。

友だちとの関係を中心に、困っていることや気になっていることなど、一人一人の子の思いや悩みを把握し、必要な対応を進めていきたいと考えています。今後も日常的に把握する努力とともに、面談、アンケート調査を生かしより適切な指導を進められるようにしていきたいと考えています。お家でも、何か気になる様子がありましたら、遠慮なくご連絡くださいますようお願いいたします。